令和４年度（２０２２年度）
社会福祉法人　いなほ福祉会
共同生活援助事業　平見ハイツ　事業報告書

１．事業所所在地

和歌山県東牟婁郡太地町太地９１６
電話　０７３５－５９－６０２２
FAX　０７３５－５９－６０５５

２．基本方針

（１）一人ひとりの顔が見える小集団の共同生活をとおし、その人らしい暮らしが築ける支援を心がけます。

（２）入居者が、生活全般にわたり自立した生活が送れる支援を行います。
入居者の人格及び人権を尊重した支援を基本とし、支援者と入居者が共に育ち合える関係を築くことを目指します。

（１）（２）の基本方針の基、実践に努めました。

３．入居定員と実績（令和５年３月末日）

定員１０名　　現員１０名　（男性　５名・女性　５名）　　※令和３年度 ＝ 8.6 人

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
提供日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365 日
延利用人数	262	264	269	277	275	271	278	279	267	221	258	284	3,205 人
１日平均	8.7	8.5	8.9	8.9	8.8	9.0	8.9	9.3	8.6	7.1	9.2	9.1	8.7 人

<障害支援区分の分布>

区分６	区分５	区分４	区分３	区分２
１名	１名	４名	２名	２名

４．職員体制（令和５年３月現在）

職　種	配置基準	常勤換算	内　訳	
			常勤（人）	非常勤（人）
管　理　者	１名（兼務可）	0.5		1
サービス管理責任者	1	1	1	
生活支援員（早出・遅出・日勤・夜勤）	1.5	2.6	1	5
世話人（日勤・夜勤・調理）	2.2	4		8
計	５．７名	８．１名	２名	１４名

５．重点方針の結果

（１）成人分野共通方針

①成人分野事業所での共通した課題を協働して取り組んでいきます。

・「ワークショップゆう」移転プロジェクトチームを中心に、移転に向けた検討や取り組みをすすめます。

→「ワークショップゆう」移転プロジェクトチームを中心に、建設場所の選定から、図面の見直し等、移転に向けた検討や取り組みをすすめました。

・業務継続計画（ＢＣＰ）の内容を深めていきます。

→業務継続計画（ＢＣＰ）について、各委員会で話し合った内容を検討し、作成に向けてすすめました。

・身体拘束等の適正化を図る取り組みを充実させていきます。

→虐待防止委員会で検討し、「身体拘束説明書・同意書」の検討や、「虐待防止のための指針」等の作成をすすめました。

②新たな職員配置や役割のもと、体制の安定や事業所運営の充実をすすめます。

・代交代や役割の見直しを通し、体制強化を継続していきます。

・職員の役割を見直し、それぞれの役割の自覚や主体性につなげ、事業所運営の充実へとすすめていきます。

→前年度と比べて大きな職員の異動や役割変更はありませんでした。正規職員の役割りや事業所運営の携わる事への問題意識のためにも、主任級以上の管理者会議を定期的に実施する必要があると感じました。

③福祉専門職員としての人材育成をすすめます。

・今後の事業展開をすすめていくためにも人材育成や事業を担える人材の確保が課題であるため、人材育成の強化を継続します。

→実践の質を高めたり、事業展開をしていくためには、実践を任せられる人材の確保が重要であります。今後も利用者を主体とした実践や支援の質の向上となるよう、人材育成が継続した課題となります。

④法人理念を大切にしながら、法令遵守への意識や認識を深めていきます。

・法人理念の実現のために、社会的信用を確保することを目的に、法令遵守への意識や認識を高めていきます。

・指導監査ガイドラインの理解を深めます。

→指導監査が４年ぶりに成人分野３事業所で実施され、大きな指導等も無く、無事に終わることができました。今後も事業所内の内部監査を通して法令遵守への意識や認識を高める機会へとつなげていく必要があります。

（２）平見ハイツ　重点方針

①入居者の希望や思いを察知できるよう努め、ハイツで安心して豊かな生活が送れるよう支援を行います。

・家族や作業所等との連携を通し、入居者の状況を把握するようにしています。希望や思いをうまく表現できない入居者の気持ちをくみ取るようにしながら、日々の生活の中での小さな変化を見逃さないようにし、しっかりと入居者に向き合っていくことを大切にしながら支援を行いました。

②体重測定や検温などを実施し、体調の変化を把握し、職場、家庭、医療機関との連携をはかり必要な対応を行います。また感染症予防を徹底します。

・発熱や痛みなど自ら発することができない入居者もいる中では、支援者がいち早く察知できることが必要となるため、バイタルチェック等健康面への把握は特に重点を置き対応しました。また希望者へはワクチン接種対応を行いました。
体調が少しすぐれない場合に、通所するか欠席するかを世話人が判断する難しさが課題としてあります。

・令和５年１月４日～２０日、利用者４名、職員７名、家族１名（面会時の感染）か新型コロナウィルスに感染しました。入居者は各居室での行動制限を行い、職員体制が少ない中でしたが保健所の指導のもと対応しました。

③入居者同士の関係づくりや交流を図れるよう支援を行います。

・障害特性もあり入居者同士の直接的な関りは少ないですが、お互いを意識し合ったり、支援者が仲立ちとなりながら、入居者同士の関係の広がりが見られています。

・恒例のバーベキューは感染予防のため控えましたが、プチ花火大会を行いました。
余暇の楽しみと交流を兼ねて、ライブ鑑賞や手巻き寿司パーティの企画をしましたが感染拡大時期と重なり取りやめました。

④研修や学習を充実させ（職員会議、ケース会議）支援者の資質向上に努めます。

・交代での勤務体制になっているため、職員会議での情報共有を大切にしました。

・個別ケースや虐待防止等について話し合う場を持ち利用者理解へと繋げました。

６．入居者への支援内容

（１）〔個別支援計画〕

①「個別支援計画」を策定し、計画の実施、並びに適時見直しを行いました。

（２）〔生活支援〕（入居者の生活の質を高める支援）

入居者の豊かな暮らしに繋がるよう支援を行いました。

①食事の提供（朝食と夕食）

・栄養管理、買い物、食事準備、必要に応じた昼食の提供

・食堂、台所、食器等の衛生保持と管理

・献立記録

※偏食の入居者への食事の工夫を試行錯誤しながら行いました。

②金銭出納にかかる支援

・入居者負担金（利用料・入居費）の管理

・金銭出納帳の管理

・入居者個別の金銭管理

③健康にかかる支援

・服薬、通院、受診等の管理、相談、助言、同行

・規則正しい生活、清潔、衛生面についての相談、助言、支援

・朝、夕の健康状態の確認

④日常生活場面における支援

・福祉サービス事業所、職場、交友関係、家族との関係、個人生活、社会生活にかかる相談、助言、連絡、調整、支援

⑤行政機関等の手続きにかかる相談、助言、連絡、調整、支援

⑥職場訪問や余暇活動への相談、助言、連絡、調整、支援

⑦緊急時（事故・病気等）の対応

⑧地域行事への参加と住民との交流をはかる

⑨その他

・ハイツでの生活を少しでも楽しめるよう季節の飾り物を玄関ホールに飾る等、季節を感じながら生活を楽しむ工夫を行いました。

（３）〔入居者自治の育成〕

①入居者の自治を高めるための各種支援

入居者の誕生日にはケーキでお祝いしたり、リビングでYouTubeや映画鑑賞をする等、入居者同士が関わり一緒に喜び合える機会を大切にしました。

７．諸記録の整備

・「日勤・宿直業務日誌」「個別支援記録日誌」「調理業務日誌」 等、定められた必要書類の整備を行いました。

８．入居者のプライバシーの確保（個人情報管理）

人権擁護の立場から個人のプライバシーの保護並びに配慮を徹底しました。

職員は、正当な理由なく、その業務上知り得た入居者又はその家族の秘密を第三者に漏らしてはならない。さらに、職員でなくなった後においてもこれらの秘密を保持すべき旨を職員との雇用契約に明記するなど必要な措置を講じました。

９．非常災害対策（安全管理）

・避難訓練の実施　　→令和５年３月２８日

避難経路及び協力機関等との連携方法を確認

→令和４年９月１５日・令和５年３月１５日

・消防設備点検　　→令和４年７月１日・令和５年１月２７日

・災害伝言ダイヤルの実施　→４月、６月、７月、８月、９月、１０月、１２月、１月

１０．虐待防止・人権擁護のための措置

入居者の人権擁護・虐待防止等に対応するため、責任者の設置、相談窓口の設置等虐待防止体制の整備、成年後見制度の利用に向けた支援、職員に対する研修その他必要な措置を講じました。人権擁護推進員を配置し利用者・職員の人権意識の向上につなげていきました。

虐待防止責任者　　野々　江美
虐待防止担当者　　岡本　恵子

１１．苦情解決のための措置

入居者家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するため、相談窓口の設置その他必要な措置を講じました。「苦情解決要綱」に則った案件はありませんでした。

苦情解決責任者　　野々　江美
苦情受付担当者　　岡本　恵子
第三者委員　　那智勝浦町役場福祉課　障害係り担当

１２．職員の援助技術の向上

（１）職員会議の実施（月一回）

・法人や事業所からの運営、労務、報告等の情報共有
・入居者支援にかかる情報共有と支援方針
※感染予防のため４、７月、８月、１月は全体で集まる機会を控え、紙面上で情報共有を行いました。

（２）職員研修の実施（支援の質の向上）

☆内部研修

日　程	主　催	研修内容	講　師	参加人数
2022 年 4 月 23 日	いなほ福祉会	虐待防止・人権擁護伝達研修・ 身体拘束適正化のための指針	人権擁護推進員	全職員 15 名
7 月 30 日	いなほ福祉会	発達の学習会③ 研修報告書について	田尻氏・下口氏	３名
10 月 22 日	いなほ福祉会	業務継続計画（BCP について）	平澤氏	３名
12 月 14 日	職員会議	虐待・スピーチロックについて	管理者	１３名
2023 年 2 月 15 日	職員会議	GH 職員研修会（伝達研修）	サービス管理責任者	１３名

☆外部研修

日　程	主　催	研修内容	講　師	参加人数

2022年 4月19日	ピースウィンズ・ジャパン	新型コロナ対策オンライン講座	ピースウィンズ・ジャパン大江医師	１名
6月24日	全障研和歌山県新宮東牟婁サークル	全障研例会「みんなのねがい」の学習会	新宮東牟婁サークル事務局	１名
6月25日	新宮東牟婁障害者施設連絡協議会	職員研修会・映画「星に語りて」鑑賞とグループワーク	新東事務局	３名
6月28日	和歌山県	令和４年度和歌山県サービス管理責任者等更新研修	和歌山県福祉事業団	１名
8月3日	全障研和歌山県新宮東牟婁サークル	全障研例会「みんなのねがい」の学習会	新宮東牟婁サークル事務局	１名
9月26日	わされん	優生保護法学習会	きょうされん 佐藤ふき氏	２名
10月19日	全障研和歌山県新宮東牟婁サークル	全障研例会「みんなのねがい」の学習会	新宮東牟婁サークル事務局	１名
11月29日	和歌山県	令和４年度和歌山県サービス管理責任者等更新研修	和歌山県福祉事業団	１名
12月16日	和歌山県	GH職員研修会	美熊野福祉会 橋上氏	３名
2023年 1月30日	わされん	東北・いわての思いをつなげたい（報告会）オンライン	わされん 報告者６名	１名
2月8～9日	和歌山県	強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	和歌山県	１名

１３．事務・財務管理

・会計処理の適正と状況把握を定期的に実施しました。
・請求事務の適正化をはかりました。
・経費の省力化をはかりました。

※開所して８年が経過し、器具備品の修繕が目立ちました。
※光熱水費の高騰による値上げについて検討を行いました。

１４．その他の業務

（１）法人内利用者の宿泊体験実習の受け入れ

〔令和４年度利用実績〕

日中一時利用　利用者　０名　　延べ利用人数　　０名（０時間）
宿泊体験利用　利用者　３名　　延べ利用人数　　７名（７泊）
作業所職員による宿泊支援回数　　２泊（同泊）

※本年度は感染症予防のため家庭の都合による緊急利用のみ受け入れを行いました。

（２）啓発

・地域での暮らしを通し、地域住民の障害への理解の促進に努めました。
・見学者の受け入れを行いました。

（3）きょうされん・わされんの運動

・ブロック会議やグループホーム部会に出席し、情報収集や地域での障害者運動に参加する事が出来ました。